

2020.08.09 聖書預言アップデート 患難前携挙の証拠

『患難前携挙の証拠』

ではおはようございます。毎週の「聖書預言アップデート」へようこそ。ご参加いただきありがとうございます。初めての方々がたくさんおられるのを存じています。新しい方のために、お勧めしたいのですが、ハワイ時間の午前 11 時 15 分から始まる 第二礼拝にもご参加ください。第一礼拝は、「預言アップデート」で、そして第二礼拝が聖書の「解き明かし」です。日曜日の朝の説教です。私たちは現在、節ごとの「聖書の教え」で第一テモテを学んでいます。是非そちらにもご参加ください。今日お話しする内容ですが、今日もまた、聖書の教えが 預言アップデートと 結びついている一例です。こんにち直面しているこの世界的な危機を 主が私たちに乗り越えさせて下さることを、私たちが、いかに主に信頼することが出来るか、また、その理由は何かについてお話しします。非常に励まされます。主が私たちにご用意なさっておられるものを 本当に楽しみにしています。是非ご一緒ください。また、私の出生地であるレバノンのベイルートで爆発があった後、私にご連絡をくださった皆さんに感謝したいと思います。

現在ベイルートに私の親戚がいるかどうかは分かりませんが、私たちは確かに ベイルートの人々のために祈る必要があります。ご覧になったかどうか分かりませんが、今朝 私が教会に来る前にも、暴動と抗議行動が増えています。皆さんが理解せねばならないのは、特にベイルートですが、実際には世界中で先週お話ししたように、世界は瀬戸際にあり、完全崩壊の寸前にあります。政治的にも、経済的にも、全てにおいて。そして確かに、レバノンではそうになっています。イスラエルでもそうです。イスラエルで何が起きているのかを 皆さんご存知かどうかは分かりませんが。この件について、その預言的な重要性について 尋ねている方々にお答えすると、私たちには まだ分からない事がたくさんありますが、しかし、間違いなく イザヤ 17 章 1 節が 焦点に入ってくるように見えます。これは、ダマスカスの破壊についての預言です。

「見よ。ダマスコは取り去られて都でなくなり、瓦礫の山となる。」 (イザヤ 17:1)

以前のアップデートで、この預言や、これに似たような他の多くの預言について、再三話してきました。ですからもしかしたら、また今度、主の御心であれば、これらの預言を再考するかもしれません。しかし、今日は、先週述べたように別のことをします。患難前携挙について話します。具体的には、教会の携挙が、絶対に 7 年間の患難の前に 起こらねばならないという聖書からの証拠です。このライブ配信が終わったら、オンラインの方に、それから地元の皆さんも、ご興味があれば、PDF ファイルのリンクを貼っておきます。4 ページの PDF ファイルになっていて私たちのウェブサイトでご覧になれます。ライブ配信が終わったら、そのリンクをつけますので、私たちのウェブサイトアクセスしダウンロードして頂けます。それには、今日見ていく内容すべてと、実際、それ以上の事が含まれています。でも、覚書や参考文献や聖句、そういうのが全部 載っています。それらに興味がある方は、ライブが終わったら表示されるリンクにアクセスなさってください。いいでしょう。本題に入る前に、「なぜこれが？」「なぜ今？」という問題に取り組みたいと思います。2 つの主な理由があります。1 つ目は、7 年の患難時代に起こると告げられている事が、今、起こり始めている その速さの故です。非常に速い

です。迅速に。とにかく、猛烈な速さです。ルカの福音書 21 章 18 節(※28 節です)で、イエスはこのように言われました。「これらのことが起こり "始めたら"、」 キーワード = 始めたら「身を起こし、頭をあげなさい。あなたがたの贖い(あがない)が近づいているからです。」言い換えれば、これらの預言が実現し始めるのを見始めると...7年間の患難時代にその最終的な成就が見られることを私たちが聖書から知っている預言です。それらが今すでに起こり始めています。私が今まで聞いた中で最高の描写だと思ふのがクリスマスと感謝祭。その時期にショッピングモールに行くと...まあ今は行けませんけどね。行けますか? どうでしょう? 私はあまり外出しませんので。でも、行けるとしましょう。マスクを着けて。中に入ると、すべての装飾と看板がクリスマスに向けて準備されています。毎年毎年どんどん早くなっています。お気づきですか? 9月頃には、既にクリスマス関連のものが出ています。まだ9月ですよ。こういうことなんです。中に入ると、クリスマスのあらゆる兆しが見られます。でも感謝祭はクリスマス前です。では、クリスマスがそれくらい近いとしたら、感謝祭はどれほど近いのでしょうか。要点が分かりましたか? これら全ての患難時代の預言の兆候が既に見えていて、いわばそれらが稼働しているのが見え、そして感謝祭がクリスマス前にあるように、携挙が再臨前に起こるなら、私たちはどれくらい近いのでしょうか? だから、私たちは今、この話をしているのです。2つ目の理由は、実に1つ目の理由と結びついています。クリスチャンとして私たちが、患難前携挙について迷いがあるなら...言い直します。患難前携挙という健全な教義について確信がないなら私たちは、事実上サタンに白紙の小切手を渡し、私たちの人生における疑念と恐怖の量(金額)を好きなように書き込ませている事になります。なぜならもし私が、よく分からないとか、はっきりしないとか、確信が持てないとか、信じられないなら、それはゲームチェンジャーです。それはすべてを変えてしまいます。そうすると、私はイエス・キリストを待ち望むのではなく、反キリストを待っていることになります私は非常に深刻な永遠の生死に関わる決断に直面しています。獣の印を受け入れるかどうかについて。その準備は既に整っています。そのテクノロジーは既に整い、反キリストの体制は既に整っています。それは既に存在します。それはただ時間の問題です。...これについては以前に話しましたので、あまり時間をかけたくないのですが、私たちの理解には関連していて適切であるかもしれません。聖書の預言には、私が保存可能期間とか有効期限と呼びたいものがあります。物事が動いていて、この勢いがあるときは、一時停止ボタンを押すことは出来ません。「鉄は熱いうちに打て」という諺通りです。あるいは、私たちが思い出したくないくらい何度も言われるのを聞いたように、「良き危機を無駄にするな。」あえて言うならば、これは「良い」危機ではなく、「ほぼ完璧な」危機です。完璧な危機を思いついたかったら、これになるでしょう。白状しますが、今日の教えに備えるためにアーカイブを見直していくことで、私は本当に励まされ、希望を新たにし、信仰を強められました。私は疑いを持っていたわけではありません。私は聖書に戻って、神の御言葉に戻って、御言葉の神に戻って、この人生を変える真実を再考する必要がありました。再確認するために。正直に言うと、今起きていることを見ていると、こんな風に思ってしまうからです。「大患難前携挙じゃなきゃ...」 そうですね? そして、その通りなんです。今日、皆さんが大きな励ましを受けられることが私の願いであり、祈りでもあります。皆さんが希望を新たにし、皆さんの心が強められますように。以下は、患難前携挙を証明する多くの理由のうちの7つです。そして、私はそれを RAPTURE(携挙)という単語の折句(語呂合わせ)の形にしました。

(R)私たちへの啓示、(A)私たちへの影響、(P)私たちの純粋さ、(T)私たちのためのラッパ、
(U)私たちとの統一性、(R)私たちにある責任、そして、(E)私たちからの励まし。

何と賢いのでしょうか？ 11年前に思いついたんです。勘弁してください。私はちょっと気に入ってます。皆さんも そうだといいいのですが。覚えやすい方法です。実際、私は聖書のすべての書を暗記するために 頭文字を折句の形で使用しました。各書の名前の頭文字をとって、そうすることで、旧約聖書と新約聖書の両方の 書の名前を全部覚えることが出来ました。事実、詩篇の中には、、、詩篇と一緒に学んだ皆さん、詩篇の多くは、覚えられるように折句形式で書かれています。そうやって折句方法で暗記するんです。とにかく、私はそういうことにしてあります。では、最初の理由から始めましょう。私たちに向けた黙示録からの啓示。それを朗読する人、聞く人、心に留める人に 祝福を約束する聖書の中で唯一の書。聖書全体で他のどの書にも、黙示録にあるような祝福はありません。しかし悲しいことに、それは聖書の中で一つ、クリスチャンが疫病のように避ける書です。そうすることで、彼らは待ちうける祝福を奪われています。そして彼らはその書を恐れています。「とても終末論的だから！」実際、原語のギリシャ語の「黙示/啓示 (Revelation)」という言葉は、「アポカリプソス」から来ています。英語の

「アポカリプス (啓示)」の語源です。それで、その言葉を聞いたとき、皆さんは心の目で何を想像したり、描いたりしますか？「黙示録 (アポカリプス)！」 「うわ〜！」実際にそれが 本当は何を意味するか知っていますか？それはお披露目すること、明らかにすることです。これが非常に深いことな的是分かってます。啓示、明らかにする。(Revelation ⇔ Rveal + ation) それは未来の出来事をお披露目すること、明らかにする事です。それが黙示録です。1章の19節、これを黙示録における「神の概要」と呼んだ人がいます。ヨハネはイエスから告げられます。

「それゆえ、あなたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ。」

(黙示録 1 : 19)

ギリシャ語で メタタウタ。これらの事の後に。言い換えれば、「ヨハネよ、あなたが目撃したものを書きなさい。」 = 過去 「今、あるものを書きなさい。」 = 現在 「そしてこの先のことを書きなさい。」

= 未来

過去、現在、未来。従って、黙示録全体は、この神の概要によって分割することができます。過去、現在、そして未来。黙示録4章1節から、その書の終わりまでは、すべてこの先の未来の事です。ですからヨハネは、黙示録4章1節にこう書いています。

「その後、(ここからは未来の事です。) 私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。『ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。』」 (黙示録4 : 1)

ですから言わばヨハネは、携挙され、引き上げられ、天国に連れていかれ、そしてイエスが言われたのです。『ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。』ほ〜 スゴイですよ。つまり、この神の概要(過去、現在、未来)の中に、患難前携挙の証明があります。その論理をお話しします。1章は過去です。1章はすべて、イエス・キリストが十字架につけられ、葬られ、よみがえり、栄光を受けられた事。過去形。「あなたの見た事」ヨハネはその目撃証人でした。

2章と3章は現在。教会の歴史。

当時小アジアとして知られた、現代のトルコに実在した7つの教会宛ての7通の手紙。ヨハネが、イエ

スからの靈感を受けて書いたもので、当時 その地域の 7 つの教会に送られたものですそれが教会の歴史です。そして、ここが重要です。第 1 章、第 2 章、第 3 章で、「教会」と言う語は 19 回語られています。4 章 1 節以降、それが何回 語られているか、知っていますか？ ゼロ。ご覧のとおり、4~5 章は、まさに携挙のこと。6 章から 19 章：7 年間の患難時代について。20 章：千年王国。21 章から 22 章：新天新地。それが黙示録にある、美しい壮大な神の概要です。さて、なぜ教会は患難時代について書かれた 6~19 章に、語られていないのでしょうか？ なぜなら、教会は患難時代にいないからです。おバカちゃんとも呼んで下さい。もっとひどい呼ばれ方をした事もあります。でも、それが、理にかなっていませんか？「でも患難時代に救われる人々はどうなのか？」と聞く人もいるでしょう。彼らは 花嫁ではありません。これについては、後で詳しく説明します。彼らは、患難時代の聖徒 と呼ばれています。これらは、獣の印と反キリストを拒否する人々です。彼らはイエス・キリストを受け入れ、その信仰のために死ぬのです。彼らは殉教し、以前のアップデートで 話したように、斬首されます。彼らは 花嫁ではありません。彼らは 救われたクリスチャンです。黙示録を学ぶと、彼らは御座で 仕えています。花嫁は キリストと共に御座に座っています。その区別をしてください。2 者の違いを。彼らは 花嫁ではありません。彼らは文句を言わないでしょうけど、しかし、彼らはキリストの花嫁ではありません。では、2 つ目の理由。携挙が 7 年間の患難前に起こらねばならないのは、私たちに与える影響のため。説明させてください。携挙が いつでも起こり得ることを知っている事は、この世界で、私たちが どのように生きるかについて、重大な影響を与えるはず。これは「切迫性の教義」として知られているものです。私は その言葉が大好きです。「切迫した (imminent)」それは、その意味そのもののような響きだから。「今すぐにも (any minute)」(*イミネント ⇔ エニミニト) それは文字通りの定義ではありません。申し訳ない。「切迫性の教義」とは、携挙が起こる前に 起こらねばならない事は 何もないという健全な教義です。携挙はいつでも起こり得ること。それは差し迫っています。

(imminent) それは いつでも起こりえます。(any minute) はい、これでもうやめておきます。そのため、どう私たちが生きるかに 大きな影響を与えるはず。マタイの福音書 24 章。私に言わせれば、救い主が 教えられた中で最も強力で深遠な たとえ話です。45 節から始まり、イエスが語り、教えておられます。

マタイの福音書 24 章

45 ですから、主人によってその家のしもべたちの上に 任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいだれでしょう。

46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえる しもべは幸いです。

47 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に 自分の全財産を任せるようになります。

48 しかし (対照的に 48 節) 彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、

彼は戻ってこない。彼が戻ってくるって、彼らは何世代にもわたって 言ってきたじゃないか。その影響は？ その結果は？

49 仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと 食べたり飲んだりしているなら、

50 そのしもべの主人は、(興味深い詳述です) 予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのは、

最大の嘘が 何か知ってますか？ 地獄の穴からの最大の嘘は、「神はいない」というものではありません。また「天国はない」とか、「地獄はない」というものでもありません。それらはすべて嘘ですが、

最大の嘘は、「天国も地獄もない」というものではありません。最大の嘘は、「急ぐ必要はない」というものです。急がなくていい。まだまだ十分な時間がある。「パーティーしようぜ〜。」正しいしもべはそうではありません。「よくやった。」と言われる、善良で忠実なしもべは違います。なぜか？今にも戻って来るかもしれない主人が、いつでも戻って来られるという差し迫った期待を持って生活していたからです。それで彼は常に準備をし、常に見張って生活していました。それが聖書全体を通しての訓戒です。準備して見張っていること。そうすれば、主が来られる時に、あなたにとっては夜中の泥棒のようににはならない。第一、第二テサロニケの学びで私たちはこの事について勉強したばかりです。第二テモテ 4 章 8 節、私はこの約束が大好きです。これは頼りにできます。パウロは今、彼の人生の終わりにいます。携挙が先に起こらなければ、私たちはその節の学びをします。私たちは今第一テモテです。第一テモテの次は何でしょう？ またしてもすごく深いですが、第二テモテです。ですから 4 章 8 節に入ったら、これについてさらに話します。パウロは人生の終わりにいて、彼はそれを知っています。8 節。彼は言います。

「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終えました。

そして今、私に待ち受けているのは、この義の冠です。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、（お聞きください。）

主の現われを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」（第二テモテ 4 : 8）

なんと素晴らしい。。。これが何を意味するか知っておられますか？ 男の人には変なのは分かりませんが、王冠は女の子のもの、みたいな...間違いなく、皆さん、これらの王冠は受け取った方がいいです。これはその一つです。それは、主が来られるのを見張り、あこがれ、疼き、懇願し、待ち、望んでいる者を待ち受ける義の王冠。

第一ヨハネ 3 章

2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

そして、彼が 3 節で言う事を非常に注意深く聞いてください。

3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

まず、ヨハネがここで何と言っていないかを指摘させてください。彼は、私たち自身に、自分自身を洗ったり 聖めたりする 傾向や能力があると 言っているではありません。そうではなく、ヨハネが言っているのは、お聞きください。「あなたはキリストの花嫁です。」花嫁についてはすぐに説明しますが、それは純粋な 処女の花嫁です。あなたがたは、キリストに与えられた義によって、清くされるのです。ヨハネが言っているのは、もしあなたが本当に彼の現われを待ち望んでいるのなら、あなたは身辺整理をするでしょう。あなたは神の事柄について 真剣になるでしょう。あなたは神と正しい関係になり、そしてあなたは主が来られるのに用意ができるでしょう。

さて、これが 3 つ目の理由に繋がっていきます。それは、キリストの花嫁としての 私たちの純粋さです。第二コリント 11 章 2~3 節で、パウロが言います。

第二コリント 11 章

2 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。...そして、これが理由です。パウロ

曰く、私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。

あなたはキリストと婚約しています。

3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

パウロがここで述べ、また他の書簡でも繰り返し言っているのは、私たちがキリストの花嫁であることです。キリストと婚約し、間もなくキリストとの婚姻で結婚する私たちは彼の“花嫁”になります。やはり、男性の皆さんには、これは本当に妙な感じですが、間違いなくあなたは花嫁になった方がいいんです。私にとって、患難前携挙の最も説得力のある証拠の1つは、古代ユダヤ人の結婚式の慣習で、それは患難前携挙を見事に描いています。また、それは、イエスは患難前携挙を教えたのか？ というよく聞かれる質問への答えにもなります。ありがたいことに、イエスはこれを教えただけでなく、福音書では何度もイエスが花婿としてご自分の花嫁に語られています。そして彼らはそれを知ってたはずで

す。彼らはそれを理解していたはずで

す。ご存知の方も多いですが、私は Ingenuity Films の制作責任者であるブレント・ミラー・ジュニアから『Before The Wrath』に出演の依頼を受けました。それはすばらしい特権でした。この映画はもっぱらこの予型論についてでしたから。Amazon Prime でご覧になれます。まだご覧になっていない方は、ぜひご覧になることをお勧めします。ガリラヤ式の結婚式の予型論に関して、非常によくできた映画です。以下は簡単な説明です。PDF 資料にはもっと多く書いてありますが、時間の関係上、殊に、この予型論について、皆さんに説明したいと思います。なぜ、キリストの花嫁の携挙が、絶対に、完全数である7年の患難前に起こる必要があるのかについて最初のものから始めましょう。ユダヤ人の結婚式では、結婚の契約=ケトウバがあります。そしてそれは、花嫁に果たされる約束として、花嫁のために書かれたものです。婚約するときの約束の指輪です。これは約束、つまり契約です。私たちの結婚式では、花嫁である私たちのために、神の書かれた御言葉において新しい契約が結ばれます。そして古い契約の約束は成就します。画面上に参照聖句が表示されていますが、やはり、資料には、それらの聖句と、他の聖句も含まれています。ユダヤ人の結婚式では、この契約が結ばれると、彼らはパンを裂いて杯から飲み、この新しい契約、婚約（キッドゥシン）を締結します。私たちの結婚式では、最後の晩餐でイエスはパンを裂いて、弟子たちと杯から飲み、彼の新しい契約をご自分の血で結ばれました。それは、花婿と花嫁のこと、そして来るべきこの結婚の約束のことだったのです。それが最後の晩餐の意味でした。ユダヤ人の結婚式では、花婿は代価(モハー)を払って、花嫁に自分への愛を示します。私たちの結婚式では、イエスが十字架の上で代価を全て支払いました。これは、私たち花嫁に、イエスが私たちのために命を捨てられる以上に大きな愛はないことを示します。ユダヤ人の結婚式では、花婿は彼の花嫁のための場所を準備します。婚約の後、彼らはパンを裂き、杯から飲み、婚約の契約を結び、花婿は間もなく妻になる花嫁にこう言います。

「私はこれから行き、父の家に場所、婚姻部屋を用意します。私たちが結婚を完成させ、お祝いすることができるよう。そしてそれが終わったら、私は戻って来て、あなたを迎えに来ます。私はあなたを連れて行って、私たちは結婚します。」

それが習慣でした。私たちの結婚式では、イエスはこう言われました。

わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、わたしの父の家には住む所（*邸宅）がたくさんあります。

一部の翻訳では、「住まい」と訳されています。

...また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。(以上ヨハネ 14 : 3 参照)

「そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。」

(ヨハネ 14 : 2)

彼は自分の花嫁に、花婿として話しているのです。私たちの婚姻部屋を作りに行くのだと。わたしはあなたがたを迎えに戻ってきますと。ユダヤ人の結婚式では、花婿が花嫁のために戻る日、また時刻を知っているのは父親だけです。私たちの結婚式では、イエスは、父以外の誰も彼の花嫁である私たちのために彼が戻ってくる日や時を知らないと言われました。(マルコ 13 : 32 参照)

ユダヤ人の結婚式では、花婿が来るとき、花婿の介添人が先に走り出して、「彼が来る～」と叫び、彼らはラッパを鳴らします。「彼が来る～」「彼が来る～」私たちの結婚式では、花婿が来るときは、神のラッパの叫びと共に、イエスが私たち花嫁のために来られます。ここからが本当に面白くなる場所で、私はドキュメンタリー「御怒りの前 (Before the Wrath)」の撮影までは、この事を知りませんでした。これはガリラヤ地方で行われた考古学的な発掘から分かったことの一部です。ブレントが私にこれを教えてくれた時、私は、「ああ大変だ。」「ユダヤ人の結婚式に関する長年の教えをすべてやり直さないで！私はこれを知らなかったから。」これは素晴らしい。これは鳥肌ものです。花婿が来て、彼の花嫁を連れ、花嫁はこんな椅子にさせられて、そして、地面から持ち上げられて、花婿の所へと空中を運ば

れるのです。♡♡ええっ？ちょうど、私たちの花婿イエスが来られる時のように。私たちは空中に引き上げられ、空中で彼に会うために彼のところに連れて行かれます。うわー！さてユダヤ人の結婚式では、... こういう言い方をさせてもらえば、これが私たちが法医学的証拠を見る箇所です。患難前携挙の証拠です。新郎が彼の花嫁を部屋に連れて行って、彼らは婚姻を完成させ = ニッサイン、そしてシャブア = "7" の期間、祝うのです。3.5 ではありません！すみません。私は叫ばないと主に言いましたが、やりました。いえいえ...ご辛抱ください。7 は完全数です。ダニエルの第 70 週目。前回確認したところ、1 週間は 7 日あります。イエス・キリストの花嫁を、7 年間の患難のどこかに入れるならば、予型論を崩し、崩壊させてしまいます。神はそれを大変 深刻に受け止められます。それはモーセに尋ねてみると良いでしょう。「どういう意味ですか？」ああ、何が起こったのか覚えてないんですか？モーセは命じられました。イスラエル人は不平を言っていました。「我々は死んでしまう！」「エジプトには、私たちを殺して埋めるために十分な墓がなかったのか～？」「神は私たちを荒野に連れて来て殺さねばならなかったのか？」「喉が渇いて死にそうです。水は？」そこで、神は言われます。

「モーセよ。岩を打ちなさい。そうすれば、水が出てくる。」そこで彼はそうしました。それはまた起こります。そしてイスラエルの民はまた不平不満を言います。モーセはもう うんざりしていました。そして、神はモーセに岩を打つのではなく、岩に命じなさいと言われます。しかし、怒り心頭のモーセは何をするでしょう？実は細かいところがかなり面白いです。私はこれに深入りするつもりはありませんでしたが、皆さんにこれを聞く必要があるのかもしれない。「『7』という数の予型論」に関する事です。彼は言います。「"私たちは"どれくらいあなたがたに我慢しなければならないのか？」私には想像できます。本文にはないのは分かっていますが、神がこう仰るのが想像できます。「なあ、モー。こっちに来なさい。」「その "私たち" ってなんだ？」「ああ、あなたは今わたしと同じレベルにいるんだね？」それはモーセに約束の地を失わせました。ご存知ですね？なぜか？彼は予型論を壊したか

らです。どんな予型？ その岩はキリストです。イエスは一度だけ打たれました。一度、十字架につ

けられました。二度ではありません。磔刑後の今、皆さんはキリストに話しかける事ができます。それが予型論でした。今、あなたは岩に話しかける(命じる)事ができます。しかし、モーセは何をしますか？ 彼はもう一度岩を打ちます。それは予型論を損ないます。神はそれを非常に深刻に受け止められます。多分、今がちょうどいい機会かもしれません。これを言うつもりはなかったのですが、言う必要があるのでしょうか。愛をもって、言います。私が患難前携挙について話すと、例外なく、、、私は、なんと言いましょか、私とはとにかく、非常に非難されます。その中の卑劣で不快なコメントと言ったら... 色んな人からのメールが届きますが、基本的に彼らは、私に罵詈雑言を浴びせます。人々を迷わせる偽教師だと、私を非難します。皆さんに言いたいんです。そんなコメントを投稿したり、そういうメールを送る前に、よく考えた方がいいと思います。

なぜかと言うと、あなたは、あなたが投稿した一字一句に申し開きをせねばならなくなるからです。私自身も、自分の心を見張らねばならない者としてそう言っています。あなたはすごく気を付けた方がいいのです。あなたは、あなたが書き、タイプし、投稿し、送信する一語一語によって裁かれるからです。そういう事です。これでも止まらないでしょうが、結構です。ですから、イエスは来られて、私たちのために準備されたこの場所に私たちを連れて行き、私たちは7年間お祝いします。私はある人がこう言ったのが好きなんですが、世が患難している間、私たちは浮かれ騒いで、私たちの子羊との婚姻を完成させているのです。ユダヤ人の結婚式では... これは7年後の事です。7日後。巨大な祝宴があります。これが何を意味するか知っていますよね？ これは、特に男性にとって、大きな励みになるはずで、天国の食べ物。女性にとってもです。コレステロールやカロリー、脂肪分、何も関係ありません。それは子羊の婚姻の祝宴です。それは、7日...つまり7年の祝いの後です。私たちも、7年間の祝いと完成の後、婚姻部屋から姿を現します。そして、私たちが祝う、子羊の婚姻の大宴会があります。これが、患難後携挙説が、常に難しいものである理由です。なぜなら、携挙が仮説的に、議論上、患難後だとするならば、

婚姻の祝宴は、ドライブスルー用の紙袋入り弁当になります。バンジージャンプ状態で...と言うのも、あなたは(こんなに上下に) ...7年がありません。再び予型論です。最後です。ユダヤ人の結婚式では、花嫁の新居はエルサレムでした。花婿が、花嫁と一緒に住むために、花嫁のところに来たのです。そして、新しいエルサレムから、私たちの花婿であるイエスが、私たちと一緒に住まわれます。永遠に新しいエルサレムで。これが、4つ目の理由につながります。それは、「私たちのためのラッパ」です。聖書中でラッパは、神の民を神に会わせるか、結婚式のために集合させるために鳴らされます。ラッパはまた、別の理由でも鳴らされます。戦いや戦争のために神の民を集めるためです。旧約聖書と新約聖書の両方に、2つの異なる目的のための2種類のラッパがあります。また、最初のラッパと最後のラッパがあります。ご辛抱ください。これは非常に重要です。ここは、多くのクリスチャンが聖書、具体的には聖書預言を解釈する時に、多くの問題に直面するところです。最初のラッパはイスラエルのためです。最後のラッパは教会のためです。旧約聖書の中の、イスラエルのための最初のラッパは出エジプト記19章16-17節にあります。「三日目の朝、...」興味深いことに、予型があります。わかりましたか？ 「.....雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上にあって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。」「モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。」これは神の民を集めて神に会わせるための最初のラッパでした。最後のラッパは私たち、教会のためのものです。これはパウロのコリント人への最初の手紙で見られ、彼は、教会の携挙に

ついて述べています。15章の51節～52節で、次のように語っています。

コリント人への手紙第一 15章

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠る（死の意）わけではありませんが、みな変えられます。終わりのラッパとともに（キーワード）、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

さて、この先に進む前に、黙示録 10章 7節にあるラッパに触れておかないと私の職務怠慢になってしまうと思います。

黙示録 10章

7 第七の御使いが吹こうとしているラッパの音が響く その日に、神の奥義は、神が ご自分のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。

これが患難中のことであり、これが最後のラッパだと提案する人が大勢います。だから、患難中のこのラッパが鳴るまで、携挙は起こり得ないのだ、と。その問題点と、それが真実ではない理由は次の通りです。それは、御使いが吹き鳴らすラッパです。これは最後のラッパではありません。あなたは理解せねばなりません。これはとても重要です。お見逃しなく。聖書には二つのラッパがあります。1つは御使いのラッパで、もう1つは神のラッパです。御使いのラッパはイスラエルのためであり、神のラッパは教会のためです。だから、黙示録にある患難中期のこのラッパは、教会のためではあり得ないので。それは御使いのラッパです。

マタイ 24章 31節

人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たち（イスラエル）を集めます。

第一テサロニケ 4章 16-17節、後ほど、これについて話します。

第一テサロニケ 4章

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。...

御使いのラッパではありません。神のラッパです。

...そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

いいでしょう。先に進めます。5つ目の理由。私たちとの統一性。ここでも、患難前携挙の雛型です。今回は旧約聖書で。それは、聖書の中の予型（ひな形）が、今の私たちとどのように関連して作用するか、また、預言的な描写といかに調和・一体化するかを示すもので、この統一性を確立します。調和させて一つにします。まず、救い主ご自身がルカの福音書 17章 26-30節で述べられた最初の2つから始めます。

ルカの福音書 17章

26 ちょうど、ノアの日が起こったのと同じことが、人の子の日にも起こります。

27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったりとついでにしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

28 また、ロトの日が起こったことと同じようになります。人々は食べたり飲んだり、売ったり買った

り、植えたり建てたりしていましたが、

29 ロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降って来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

30 人の子が現れる日にも、同じことが起こります。

いいでしょう。ここでは、私たちの時代とノアの日を比べて、この予型論の類似点を少しだけ挙げてみましょう。ロトの日も同様に、私たちの時代と比較して。やはり、資料にはもっと載せていますが、時間の都合上、いくつかだけ取り上げます。まず、一部の学者は、ノアの時代の地球の人口は約70億～90億人だったと推定しています。現在、地球の人口は約80億人に達していると推定されています。もうすぐ90億人に到達するでしょう。非常に悪魔的な、非常に性的に忌まわしい行為が、当時、標準的になっていました。これが創世記6章にあるように、ネフィリムと呼ばれるのを聞いたことがあるでしょう。これらは悪魔でした。ちなみに、補助的に言うべきですが、新たな関心が寄せられています。実際、皆さんも、これらのUFOや宇宙人について、ニュースでよく耳にしているのではないのでしょうか。ある人たちは、携挙が起こって何百万人もの人々が消える時に、その説明としてこれが使われるのだろうと信じています。私は非常にはっきりと、公に言うべきですが、このUFOや宇宙人は悪魔です。ノアの時代には、血統をおとしめるのが目的だったのです。だからこそ、彼らはイスラエル人の女性と性的関係を持つとしたのです。救い主の現れる血統を損ない、おとしめ、台無しにするためです。ちょっと強烈な類の話なのは分かっています。その話に入りたくないし、時間もありませんが、こんにち起こっている事は、言葉では表せません。今日、起こっている事は...言うに耐えないものです。性的に嫌悪すべきこと、悪魔的な行為...ノアの時代には、人間の悪は非常に増大し、その心に抱く考えは絶えず悪に傾いていました。そしてこんにち、人間の悪さは非常に増大し、邪悪で、日ごとに益々邪悪さが増しているように見えます。やはり、参照聖句が資料にあります。ノアは箱舟を準備しながら説教をし、人々に警告しましたが、誰も耳を傾けなかった。こんにち、イエスが説教され、人々は警告を受けていますが、悲しいことに誰も聞いていないようです。ノアの時代には、その日に洪水が地球を滅ぼすまで、人々は何が起こるのか何も知りませんでした。こんにち人々は何が起こるかを何も知りません。しかし、火が地球を滅ぼす日がやってくるのです。しかし、ペテロが第二の手紙で語っているように、人々はあざけり、嘲笑し続けるだけです。ノアの時代の大洪水の破壊の前に、

「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」（創世記5:24）

私はこれが大好きです。彼がいつものように外にいたら...ブン！と消えてしまったのです。彼はどこへ行ったのでしょうか？神が彼を取られました。どうやって神はエノクを取られたのでしょうか？携挙なさいました。彼を空中に引き上げられ、ブン！彼はいなくなりました。皆さん私を「それで？」みたいに見ておられますね？エノクは教会の描写です。大洪水前に。ノアはイスラエルの描写です。イスラエルは、7年間の大患難時代に入ります。しかし私たちの予型はノアではありません。私たちの予型はエノクであり、大洪水前です。ちょうど私たちが...その日は、、、あ〜、素晴らしい。今この瞬間でどうでしょう？皆さんが日常の生活をしていると、ブーン！それだけ。皆さんはいなくなりました。神が携挙されたんです。取り除かれた。エノクが洪水前に取られたように、7年間の患難前に。「ノアは息子たちや自分の妻、...」創世記7章にあるこの詳細は興味深いです。「...、それに息子たちの妻とともに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。」「七日たつと、大洪水の大水が地の上に生じた。」そのように、私たちがエノクのように取られた後で、患難が全地を襲います。そしてイスラエルは、7年間

の患難に入ります。イスラエルの予型であるノアと彼の家族が大洪水のど真ん中で救われたように、イスラエルは7年の患難のど真ん中で救われるのです。ちょうどユダヤ人が患難時代に救われる様に、裁きの後、彼らは新しい地に入っていました。そして裁きの後に、私たちは新しい天と新しい地に入ります。ロトの話を手短にしましょう興味深いので、お聞きください。ロトは破壊が来る前に、突然ソドムから連れ出されました。実際本文を読んでみると、興味深い詳述があります。ロトは去りたくなかったという印象を受けます。彼の妻が去りたくなかったのは知っていますね。その後どうなったかも。しかし、そのため、彼らは彼の手を掴んで、ほとんど力づくで彼の意志に反して、連れ出さねばならなかった程でした。火や硫黄が降って来て、ソドムとゴモラを滅ぼし始める前に。ロトは、教会の予型です。さて、これが部分的携挙説として知られる誤った教えに関する質問に答えまますごつと説明させてください。ご辛抱ください。部分的携挙説とは、本当に主に情熱を燃やしている人たちだけ、主を待つて、本当に見張っている人々だけ、本当に主のそばを歩いている者たちだけが携挙されるというものです。ロトをそういう風に表現するのは難しいと思います。ロトは、言わば、世俗的なクリスチャンを絵にかいたような人だと思えます。彼はそれでも、破壊が襲う前に、連れ出されました。この患難前携挙の教えの為に、私を心底から嫌っている兄弟姉妹の皆さん、あなたに知ってもらいたいのは、私が神だったら、あなたはそうしないでしょう。皆さんにただ率直に言います。「へえ、あなたは患難中期説がいい？ ごきげんよう（アロハ）。」ちなみに、私はアッラーとは言ってません。アーローハーです。あ〜、やれやれ。好むと好まざるとに関わらず、、、そんな風に言っていていいですか？ 好むと好まざるとにかかわらず、あなたは携挙で上げられます。患難前携挙を信じる信じないに関わらずです。あなたは行いによらず、恵みによって救われているからです。携挙で上げられるためには、主のそばを歩いていなければならないのなら、それって、突然、救いを恵みの領域から取り出し、行い (Works)の領域の真ん中に置くことになります。それは上手く行き (Work)ません。シャレを言うつもりはないです。語呂合わせでした。ヨセフについて。ヨセフは、聖書の中で最も興味をそそられるキリストの予型の一つです。実際、ヨセフがキリストの予型であることを示す参照聖句が100以上あります。そのPDFファイルをダウンロードしたい方は、私たちのウェブサイトにあります。私は患難時代中のイスラエルの救いと患難時代の真ん中におけるイスラエルの解放を指し示す予型論に焦点を当てたいと思います。ちょうどヨセフが7年間の飢饉の最中にイスラエルを救ったように、ヨセフよりも偉大な方、イエスは、7年間の患難時代にイスラエルを救うのです。さて、これは7年間の患難がユダヤ人国家の救いのためである事を示しているだけではなく、また、キリストの花嫁の患難前の携挙も示しています。その論理を説明します。ちょうど、ヨセフが地位を高く上げられた後、異邦人の花嫁をめとったように、イエスもまた、復活された後、異邦人の花嫁をめとられます。ヨセフが異邦人の花嫁をめとった後、彼の兄弟たちが7年間の飢饉に見舞われたように、イエスが私たちを花嫁とした後、彼のユダヤ人の兄弟たちが7年間の患難に入るのです。創世記41章50節。参照聖句です。

「飢饉の年が来る”前に”、ヨセフに二人の子が生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが産んだ子である。」 (創世記41章50節)

なぜそんな詳述があるのでしょうか？ 彼女が教会の予型だからです。飢饉の前です。エノクは洪水前。ヨセフの花嫁は、7年間の飢饉前。教会携挙の縮図です。ヨセフのお陰で7年間の飢饉中にイスラエルが救われた後イスラエルは世の予型であるエジプトからモーセによって、救い出されます。モーセもイエスの予型です。救世主です。ちなみに、モーセも兄弟たちに拒絶された後、異邦人の花嫁

をめぐっていました。彼らがパロの下で、大患難、あらゆる災いに入る前です。同様に、モーセよりも偉大なイエスは、彼の兄弟たちに拒絶された後、私たち異邦人の花嫁を取られました。そして、兄弟たちが7年間の患難に入る前に、私たちをご自分の花嫁として連れて行かれるのです。イサクもまた、キリストの予型で、リベカというの名の異邦人の花嫁を娶りました。彼女もまた、彼らに下された苦難を経験しませんでした。私たちにそれが分かるのは、彼らに苦難が来る前に、彼女はイサクのところに行くために家から連れて行かれたからです。その後彼女については書かれていません。ダニエル。以前この事を話しましたね。彼は、教会の予型。シャデラク、メシャク、アベド・ネゴは、イスラエルの予型。彼らが投げ込まれたのは...再度その数が出てきます。何という偶然 "7"。7倍熱く燃え盛る炉。イスラエルの描写。彼らは、イスラエルが患難の最中に救われるのと同様、その燃え盛る炉のど真ん中で救われるのです。実際、文字通りの中間点で。ど真ん中で。彼らはイスラエルの予型です。ダニエルはどこ？そこにはいません。何故？お～聞いて下さって嬉しいです。なぜなら炉（Furnace）の前に、、、飢饉（Famine）前、洪水（Flood）前、、、みんな「F」で始まるのです。ちょっと言っておきます。炉の前に、ダニエルは高い地位に上げられます。炉の前に！もうそこにいません。彼は教会の描写です。彼は、炉の前に、上げられました。面白くないですか？ その炉は、3.5倍の熱さではありません。私は利口(キュート)になろうとしてるんじゃないです。しようとしてもできないのです。そうでしょう？ 3.5ではなく、7。

エジプトの飢饉は、3年半じゃなく7年。気分が良くなりました。あ、ついでに興味深い事が一つあります。ダニエル書3章。彼らは偶像崇拜を拒否し...そのため7倍に熱くした炉の中に入れられてしまう。彼らは、6つの楽器が演奏される時、60x60 キュビットの像を崇拝する事を拒否しました。666。その像。だから彼らは炉に投げ込まれたのです。もうちょっとで終わります。皆さんの中には、「おい、今何時か見たか？」時計を見ないでください。私が見ました。ルツ。ボアズの異邦人の花嫁。彼は買戻しの権利のある親類で、明らかに私たちの買戻しの権利のあるイエス・キリストを描いています。私たちは、ルツ記を学びました。YouTubeとウェブサイトでご覧になれます。なんと興味をそそられる学びでしょうか。私のお気に入りの一つです。私がほとんど全ての書についてそう言っているのは分かっていますが、本当に魅力的な書です。私は娘にルツ記を教えました。大変すばらしいのです。とにかく、この予型という生地に織り込まれているのは、大患難前の携挙のもう一つの描写です。それはもっと具体的なもので、キリストの花嫁と、神の選民としてのイスラエルの回復に関連しています。手早くやりますので、ついて来てください。シートベルトをお締めください。

ルツ記 1章 19 節

「二人は旅をして、ベツレヘムに着いた。」

とあります。ナオミとルツは、ベツレヘムの故に協力する、ユダヤ人と異邦人両方の予型です。

ルツ記 4章 13 節

「ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。-中略-ルツは、男の子を生んだ。」

ボアズよりも偉大なイエスも同様、御子として、彼の花嫁を娶ります。ここが本当に面白くなる場所です。

4章 16-17 節。

ナオミは、ルツが産んだその子を取り、養い育てた。なお、その子の名はオベデで、

オベデは、エッサイの父であり、エッサイはダビデの父であり、このダビデからこの世の救世主が出る

のです。

ベツレヘムで生まれ、ナオミの懐に抱かれたこの子は、イスラエルの予型で、キリストの花嫁の予型であるルツから取られた後、彼女は二度と登場しません。イスラエルもまた、ベツレヘムで生まれたダビデの子を、異邦人のキリストの花嫁から取った後に、受け入れるのです。分かりませんか？ 教会が携挙され取り去られる時、神は、彼の全焦点を、彼の民イスラエルの為の預言上の最後のご計画に移されるのです。それが患難時代の本質です。イスラエルが彼らの真の救世主を拒否したから。それが患難時代の目的です。

6つ目。私たちにある責任。メリアム・ウェブスター辞典は、「責任」を信頼性と信憑性と定義しています。そして、人が責任を持つもの。その責任を放棄したり、怠ったりしていないという意味で。黙示録3章7～13節。ヨハネによって書かれた、イエスからフィラデルフィアの教会に宛てた手紙です。読みたいと思います。

黙示録3章

7 また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、誰も閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる。

あまり深読みしないようにします。でもそれって興味深いですね。神が扉を閉められると、誰も開くことが出来ない。でも、神が教会への扉を開かれると、誰も閉じるべきではない。

8 わたしはあなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

言い換えれば、「あなたは責任を怠っていない。」

9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しているが、実はそうではなく、嘘を言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに來させてひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。

これは、また別の機会の別のトピックです。でも10節。ご注目下さい。

10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、-中略- 試練の時には、わたしもあなたを守る。

原語では患難(苦難)と同語です。

...地上に住む者たちを試みるために全世界に來ようとしている試練の時(7年間の患難時代)には、わたしもあなたを守る。

11 わたしはすぐに来る。あなたは、自分の冠をだれにも奪われないように、持っているものをしっかり保ちなさい。

12 わたしは、勝利を得る者を、私の神の神殿の柱とする。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記す。

待ちきれません。私はずっと自分の名が好きじゃなかったんです。新しい名前が待ちきれません。どんな名になるのかとても気になります。ファラグ以外なら何でもいいです。

13 節。どの手紙もこの終わり方です。「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。』」

7つ目。最後ですが、大事です。最後にとっておいた一番いいものです。携挙が7年間の患難前に起こらねばならないのは、それは、私たちからの励ましのためです。そして実際に私たちのための励ましでもあります。

第一テサロニケ 4章 13節～18節

13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。

「私たちが信じているなら、...」

ところで、第一テサロニケを通して、私たちの学びにご一緒してくださった皆さん、これは使徒パウロが宣教の初めごろに書いた一番最初の手紙です。そしてここには、イエス・キリストの福音について、使徒パウロが最初に語ったものがあります。それが、教会の携挙の文脈で語られている事は面白くないですか？ それが言わば完全な福音なのです。

14 イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たち（死んだ人たち）を、イエスとともに連れてこられるはずです。

15 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と“神のラッパ”の響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、...

ギリシャ語でハルパツォ、ラテン語でラプトゥルス、それが携挙（ラプチャー）という言葉の語源です。

私たちが、彼らと一緒に（携挙され）雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。

再臨においては、イエスは地上に下りてこられます。携挙では、私たちは空中で主と会うのです。こう言われています。携挙では、イエスは私たちの為に来られ、再臨では、イエスは私たちと共に、何万もの人々を伴われて来られるのです。

...こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

18 節に注目して頂きたいと思います。

18 ですから、これらのことばをもって互いに励ましあいなさい。

お〜♡ Ok. ご辛抱ください。もしあなたが患難時代を経験するなら、パウロは、「ですから互いに励ましあいなさい。」と、どうして言うことが出来るでしょうか？ あなたは恐らく首をはねられます。人口の3分の1が亡くなります。神の御怒りが下り、言葉にならない恐怖です。因みにあなたがクリスチャンなら、神の御怒りは既にキリストに注がれました。なので、神はなぜあなたに御怒りを注がれるのですか？ それってイエスがなされた事が“完了”してなかったという意味ですか？ それは神への冒瀆です。辻褄が合いません。「あなたがたは、言葉にならない恐怖を経験するのだから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」とは言えません。それは残酷です。酷い事です。そうは言えません。

あなたが言えるのは、ただ、「あなたがたはここにいないのだから、互いに励ましあいなさい。」そうなんですか？ 「そうですよ。」それは凄く励まされます。「そうですね。」「さあ、互いに励まし合いなさい。あなたがたが既にそうしているように。これは携挙が中心だから。」これは携挙の文脈にあ

るんです。励ましあいなさい。あなたがたはこれらの事が襲ってくる前に、連れ出されるのだから。それはあなたがたを励ましますか？ それは私の励みになりますよ！ 特に、何が起こるのかを見れば！！

本気ですか？ 私は、、、 「大いなる再設定」経済崩壊。それはもう時間の問題です。それは非常に恐ろしいことです。でも私は 恐れおののいていません。私は励まされてます。なぜ？ なぜなら、ここにいないんだも〜ん。正しい英語でないのは分かっています。何が本当に悲しいかという、多くのクリスチャンが、大変怖がり、不必要に怯え、落ち込み、絶望を感じている事。不必要に。私たちはどうなるの？ どうするの？ もしも？ いいえ違います。それは無関係です。それは重要でなく、取るに足らないものです。皆さんがここに居ることはありません。神が皆さんをここから連れ出されます。勇気を出して下さい。互いに励まし合ってください。この全てが 起こる”前に”、私たちは引き上げられ、空中で主と会うのです。オンラインの皆さん、まだご覧いただいているなら、ご忍耐に感謝します。もう着陸しますから。すみません。アラブ人が空港用語を使うべきでないですが、私たちは滑走路を見つけ、着陸します。冒頭にも述べましたが、この時期にこの教えをするべきだと、主が言っておられるのを本当に感じました。あらゆる事が非常に早く動いていますから。そして私が本当に心から信じている事は、...主が私の心をご存知ですが...イエス・キリストの教会携挙はもういつでも起こり得る事です。私たちは大変近づいています。私たちの誰もが想像しうるよりもずっと近いと思います。私は待ちたくありませんでした。先週話した通り、実は9月か10月にこの教えをする予定にしていました。でも、強く感じたのです。「いや、今教える必要がある」と。今教える必要がある。先延ばしにはしてはいけない、と。これを聞く必要があるクリスチャンがたくさんおられます。ただ怯え、不安でいっぱいクリスチャンがたくさんおられます。あなたはこれを解決して、真理を教える必要があります。愛をもって。私が親切で、愛を示せてこれていたらいいのですが。私がたまに厭味ったらしくなる事があるのは自覚してます。賜物です。故意にするつもりはありません。大患難前携挙という真理になると、私はとても情熱的になるんです。最後に一つ、こういう議論があります。それにもメリットはあります。携挙は救いの問題ではない。いいでしょう。それは認めましょう。しかし、次の事を考慮して下さい。もし、これが真実なら、...本当にそうすけど...それなら、キリストを知らない人々にとって、それが広範囲に影響を与えるというのが理にかなってないですか？ つまり、あなたは、永遠に誰かの人生を変えることができる情報を知っているのです。私たちが言っているのは、単なる生死ではなく、永遠のいのち、永遠の死、についてです。それは私には、救いの問題のように思えます。なぜなら皆さんが言っている事が真実なら、...そしてそれは真実です...私は聖句から患難前携挙を証明する以外に他に何ができるのか分からないのです。では、あなたはいかがですか？ あなたが主を知らなくて、これが真実なら？ 何を待っているんですか？ それは救いです。あなたは今、今日、主の下へ来る必要があります。さもなくば、あなたは取り残されます。「ねえ、私には携挙後にも機会があるから、だからもし取り残されて、あなたの言うようなことが本当に起きたら、私は患難時代にキリストに命を捧げるから。」 「本当に？」 何をもちてそう確信を持てるのですか？ 患難前に、キリストのために生きる気がないなら、患難時代にあなたがキリストの為に死ぬると、何をもちて思えるのですか？

「あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。」 (ヨシュア 24:15)

今は救いの日です。(2コリント 6:2)

「主を求めよ、お会いできる間に。」 (イザヤ 55:6)

「わたし(神)の霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。」 (創世記 6:3)

あなたが神を無視して、知らん顔してきて、もしもあなたが オンラインでご覧になっているなら、主はあなたに話しかけて、あなたの注意を引こうとされています。もう扉を叩く音が聞こえなくなる時が来るのです。そうすると手遅れになります。その時は かなり近いと思います。これが私たちが、14 年間 毎週 預言アップデートをしてきた理由です。それがイエス・キリストの福音/良い知らせと、救いの ABC という、子どもにでも分かる救いの説明で締めくくる理由です。どなたの知性も侮辱する意図はありません。子どもにでも分かる簡単な説明です。イエスが仰いました。

「子どものたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。」 (マタイ 18:3)

イエスが仰っているのは、子供たちは大変 信頼します。見知らぬ人に注意するよう 言わねばならないほどに。イエスが仰っているのは、子どものようにわたしに信頼しなさい。

A: 自分が神に背いた罪びと であるのを、また自分には 救い主が必要であると Admit/認める または、 Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙 3 章 10 節、

「正しい者はいない。一人もない。」 (ローマ 3:10)

ローマ人への手紙 3 章 23 節が理由を教えてください。

「人は皆 (私たちの誰しもが)、罪を犯して 神の栄光を受けられなくなっていますが、」 (ローマ 3:23) 私たちは皆、罪びと として生まれました。だから、私たちは 天の御国に入るには、新生しなければ ならないのです。ローマ人への手紙 6 章 23 節が興味深いのは、基本的に 悪いニュースとして、罪に 対して死刑宣告しているからです。

「罪が支払う報酬は死です。...」 (ローマ 6:23a)

あなたは有罪なので、罪状認否になると、あなたは「起訴通りに有罪」を申し立てます。その判決は 何でしょうか? はい、死刑判決です。それが悪い知らせ。しかしここに 良い知らせがあります。

「しかし、神の賜物は、私たちの 主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」 (ローマ 6:23b)

先ほどの 婚姻の予型論で話したように。花婿と花嫁を交えた婚姻の予型で。贈り物とは、何か与えられる ものです。あなたは支払っていません。あなたが支払うなら、それは贈り物ではなく、購入した物。 誰かが買ってくれたのです。イエスが購入されました。イエスは ご自分の血潮で あなたを買われました。

イエスはその代金・代価(モハー)を、あなたと私のために、全額支払われました。そして、ご自分が 支払った贈り物を 差し出して下さっています。永遠のいのち という贈り物です。

B: あなたの心で、イエス・キリストが主であると Believe/信じる。ローマ人への手紙 10 章 9~10 節

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10:9)

救われるかもしれない、救われうる、救われるべき、ではなく、“あなたは救われる”のです。そして 最後に C: 主の御名を Call/呼び求める、Confess/告白する。再度、ローマ人への手紙 10 章 9~10 節

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じる なら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10:9)

理由は、

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して 救われるのです。」 (ローマ 10:10)

最後は、ローマ人への手紙 10 章 13 節 私はこれ大好きです。私の場合、38 年前のある 1 月の夜のことでした。

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』(ローマ 10 : 13)

それだけ？ はい。誰でも？ はい。私も入ってますよ。そうです。

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』(ローマ 10 : 13)

オンラインで見ておられ、今まで主のお名前を呼び求めたことがない方、心で信じ、口で告白し、罪を認め、イエスを信頼したことがないなら、切にお願いします。あなたに懇願します。それが永遠のいのちのための、あなたの人生で最も重要な決断なのです。今日決断なさる必要があります。ご起立ください。祈りましょう。天のお父様。ありがとうございます。

まず、あなたの民の忍耐に感謝します。主よ、福音の簡潔さに感謝します。聖書預言に感謝します。患難前携拳の真理に感謝します。それが全てを変えますから。主よ、誰でも、この第一礼拝におられる方でも、まだあなたのお名前を呼び求めたことのない方のために祈ります。今日彼らがその決断をすることを祈ります。オンラインでご覧になっている方、彼らがこの動画を見ているのは偶然ではありません。今日が彼らの救いの日でありますように。そして最後に主よ。マラナタ。早く来てください。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7

類型論表

ヨセフ	イエス
父に愛された (創世記 37:3)	御父に愛された息子 (ひとり子) (マタイ 3:17)
しもべとして仕えた (創世記 37:2)	苦難のしもべと呼ばれた (ゼカリヤ 3:8, イザヤ 42:1)
兄弟たちの誰よりも愛され、高められた (創世記 37:3)	誰よりも愛され、高く上げられた (ヘブル 1:9)
兄弟たちがひれ伏し、統治する夢を見たため憎まれた (創世記 37:4, 8)	いつの日かすべてを支配し、統治するため憎まれた (ヨハネ 7:1-7, ルカ 19:14)
兄弟達から拒絶された (創世記 37:4)	神の民はイエスを拒絶した “彼らはこの方を受け入れなかった” (ヨハネ 11:1)
麦の束に例えられた (創世記 37:7)	揺り動かす穂の束であった (レビ記 23:11, 12)
ヨセフへの憎しみはますます大きくなった (創世記 37:4, 5, 8)	福音書の中で、イエスへの憎しみは次第に悪化していった
地上の父に叱られた (創世記 37:10)	神殿でイエスの母と父に叱られた (ルカ 2:48)
イスラエルはヨセフにひざまずいた (創世記 37:10)	イスラエルのすべてが最終的にイエスにひれ伏す (ローマ 11:26)
父は “心にとどめていた” (創世記 37:11)	イエスの母は “イエスの言ったことを心に留めていた” (ルカ 2:19, 51)
兄弟達のもとへ使いに出された (創世記 37:13 - 14)	兄弟達のために地上へと遣わされた (ガラテヤ 4:4-5)
世的で邪悪な場所であるシケムに使わされた (創世記 37:14)	邪悪な場所である地上へと遣わされた (ヨハネ 3:16)
兄弟達が迷っているかもしれないため、使いに出された (創世記 37:14-15)	失われた人々を探し、救うために遣わされた (ルカ 19:10)
遠くから見ていた兄弟達はヨセフを殺そうと企んだ (創世記 37:18)	人々はイエスをどうやって殺そうかと考えた (マタイ 21)
ヨセフの預言的な夢のために、兄弟達はヨセフを殺したかった (創世記 37:20)	神からのことばを語ったために、イエスは十字架にかけられた (ヨハネ 12:48-50)
ルベンは兄弟達をなだめようとした (創世記 37:21-22)	ピラトはユダヤ人をなだめようとする (ヨハネ 19:11-12)
ルベンは最後の最後でヨセフを救おうとした (創世記 37:21)	ピラトはキリストの死を止めようとした (ヨハネ 19:4)
空の穴の中に投げ込まれた (創世記 37:24)	空の墓に入れられた (マルコ 15:46)
ヨセフの長服がはぎ取られた (創世記 37:23)	着ていた服をはぎ取られた (マタイ 27:28)
兄弟達はヨセフを見殺しにした後、座った (創世記 37:25)	イエスが十字架にかけられたあと、座った (マタイ 27:36)
裏切られ、銀貨で売られた (創世記 27:28)	裏切られ、銀貨で売られた (マタイ 26:15)
兄弟達は「ヨセフは我々の兄弟で、我々の肉親だ」と言った (創世記 37:27)	“私たちはイエスの体、肉体、骨の一部である” (エペソ 5:30)
ヨセフの長服は血に浸された (創世記 37:31)	“血に染まった衣をまとっている” (黙示録 19:13, イザヤ 63:2)
ヨセフは生きていたが、兄弟達は死んだと嘘をついた (創世記 37:32)	イエスが生きていたため、人々は金を払って嘘をつかせた (マタイ 28:13-15)
ヨセフは主人にすべてを任せられた (創世記 39:8)	神からすべてのことがイエスに任されている (ルカ 10:22)
ヨセフの上着は脱がされた (創世記 39:13)	イエスの衣は脱がされた (ヨハネ 19:23)
不当に訴えられた (創世記 39:14)	不当に訴えられた (ルカ 23:14)
告発されても弁護しなかった (創世記 39:20)	告発されても弁護しなかった (マタイ 27:12-14)
神と人から好意をうけた (創世記 39:21)	神と人から好意を受けた (ルカ 2:52)
二人の罪人の隣に投獄された (創世記 40:3)	二人の罪人と一緒に十字架にかけられた (ルカ 23:39-43)
囚人の一人は罰せられ、一人は救われる (創世記 40:13)	盗人の一人は罰せられ、一人は救われる (ルカ 23:43)
三日後に呼び出されることを予告する (創世記 40:13)	三日目によみがえることを予告する (マタイ 16:21)
献酌官に、呼び出された後も自分を思い出すように伝える (創世記 40:14)	イエスがよみがえった後、杯をもってイエスを思い出すようにと弟子たちに告げる (ルカ 22:19)

献酌官に、自分は投獄されるようなことは何もしていないと伝える（創世記 40:15）	ピラトは人々に、イエスは十字架につけられるようなことは何もしていないと言う（ルカ 23:4）
2つの要素を持つ2つの夢、杯とパン（創世記 40:16,17）	最後の晩餐の2つの要素・杯とパン（ルカ 22:17-19）
正しい服を着せられ、ファラオのもとに連れて行かれた（創世記 41:14）	キリストのもとへ来た時に、私たちはキリストの義を着せられる。（ガラテヤ 3:27）
解き明かせるのは唯一神だけだと示す（創世記 41:16）	イエスはいつも栄光のために御父を示された（マタイ 5:16）
預言的に7年間の飢饉を明らかにする（創世記 41:27）	7年の患難を預言的に明らかにされた（黙示録 5:5）
“神の霊が宿っている人”であった（創世記 41:38）	神が限りなく御霊を与えられた（ヨハネ 3:34）
牢獄から王座へと移った（創世記 41:40）	墓から御座へと着かれた（黙示録 5:1）
第二の車に乗せられ、人々に敬意を示された（創世記 41:43）	三位一体の“第二の人（位格）”であり、私たちは敬意を表する（マタイ 3:17）
人々はヨセフの前にひざまずいた（創世記 41:43）	すべての膝が、イエスの前にひざまずく（ピリピ 2:10）
エジプトの全土を支配する権威を与えられた（創世記 41:43）	すべての人を支配する権威を与えられた（ヨハネ 17:2）
ヨセフの許可なしに、誰も何も出来なかった（創世記 41:44）	イエスなしでは、私たちは何もすることは出来ない（ヨハネ 15:5）
地位を上げられた時、新しい名が与えられた（創世記 41:45）	昇天した時に、新しい名が与えられた（ピリピ 2:6-9, 黙示録 3:12）
7年間の飢饉の前に、エジプト（異邦人）の花嫁をめとった（創世記 41:45）	7年間の患難前に、異邦人の花嫁をめとる（ヨハネ 3:29）
仕事を始めたとき、30歳であった（創世記 41:46）	イエスが宣教を始めたのは、30歳の時だった（ルカ 3:23）
“7”年間の飢饉の前に、二人の息子が生まれた（創世記 41:50）	7年の患難前に、新しく生まれ変わった神の子ども達は、イエスの元へ行く
次男の名は“エフライム/実り多い”（創世記 41:52）	第二の誕生は、イエスによる義の実（ピリピ 1:11）
ファラオはヨセフの言うとおりにせよと人々に言った（創世記 41:55）	イエスの母は人々に、イエスが言われることは何でもするようにと伝えた（ヨハネ 2:5）
物理的に世界の唯一の命の源となるパンであった（創世記 41:57）	世の中にとって、唯一の霊的な命の源、命のパン（ヨハネ 6:33）
ヨセフのもとに来る者は誰でも生き、死なない（創世記 42:2）	イエスを呼び求める者は誰でも救われる（ローマ 10:13）
兄弟達は飢饉の最中にヨセフのもとにやって来る（創世記 42:43）	イスラエルは患難時代の最中にイエスのもとへやって来る（ダニエル 9:27）
10人の兄弟達は穀物を受けるためにヨセフの元へ連れて来られた（創世記 42:3）	十戒は義と認められるために私たちをイエスへと導く（ガラテヤ 3:24）
ベニヤミンはヨセフを拒否したり裏切ったことはなかった（創世記 42:4）	使徒パウロはベニヤミン族出身だった（ピリピ 3:5）
兄弟達はヨセフの前にひざまずく（創世記 42:6）	イエスの兄弟達（同族）であるイスラエルは救われ、イエスにひれ伏す（ローマ 11:26）
兄弟達はヨセフだと気付かない（創世記 42:8）	神の民はイエスを認めず、受け入れなかった（ヨハネ 1:11）
兄弟達はヨセフの死について嘘をつき続ける（創世記 42:13）	ユダヤ人はイエスの死と復活について嘘をつき続けた（マタイ 28:12-15）
兄弟達は3日目に監獄から解放された（創世記 42:17）	ユダヤ人は三日目（2000年の後）に回復される（ホセア 6:2）
ルベンは“彼の血の報いを受けている”と言った（創世記 42:22）	人々は“イエスの血は私たちの上に”（マタイ 27:25）

兄弟達から離れて泣いた（創世記 42:24）	エルサレムのために泣かれた（ルカ 19:41）
ユダはベニヤミンの保証人となる（創世記 43:8）	イエスは新しい契約の保証人となられた（ヘブル 7:22）
兄弟達はヨセフの元へ行くのが遅れる（創世記 43:10）	イスラエルは真のメシアの到来を遅らせる（ローマ 11:26）
乳香や没薬などの贈り物が差し出された（創世記 43:11）	金と乳香と没薬がささげられた（マタイ 2:11）
全能の神がヨセフの前で憐みを示してくださるよと言った（創世記 43:14）	イエスの憐みのゆえに私たちは義とされる（テトス 3:5）
兄弟達はヨセフの前に立った（創世記 43:15）	人々はイエスの前に立ち向かう（ダニエル 11:16）
自分の家で兄弟達と共にパンを裂くことを願った（創世記 43:16）	イエスの御国で私たちと共にパンを裂くことを願っておられる（ルカ 22:16）
宴会の準備のために動物を屠る（創世記 43:16）	放蕩息子のたとえの教えの中で、宴会の為に動物が屠られた（ルカ 15:20）
ヨセフの管理人は兄弟達に“安心しなさい。恐れることはない”と言う（創世記 46:23）	イエスは復活後、“平安があなたがたにあるように”と言われた（ヨハネ 20:26）
ヨセフについての預言は成就した（創世記 43:28）	イエスは預言の霊（黙示録 19:10）
兄弟達の罪にもかかわらず、恵み深く、親切である（創世記 43:29）	私たちが罪びとであった時に、私たちへの愛のゆえにイエスは私たちのために死なれた（ローマ 5:8）
2度泣く（創世記 43:30）	二度泣かれる（ヨハネ 11:35-ラザロ、ルカ 19:41-エルサレム）
食事で“パンを出しなさい”と言う（創世記 43:31）	最後の食事の時に“このパンをとりなさい”を言われる（ルカ 22:19）
ヨセフのゆえに兄弟達は互いに驚き合った（創世記 43:33）	人々はイエスのことを驚き、驚嘆した（マタイ 8:27）
ヨセフの杯は銀であり、兄弟達の贖いへと繋がるものであった（創世記 44:2）	イエスの杯は贖いのためであり、銀の杯はその描写（出エジプト記 35:25-28）
神々の思いを知るために使われていた杯から飲んだ（創世記 44:5）	父なる神の御心として苦難の杯を飲まれた（マタイ 26:39, 42）
兄弟の内の 11 人はヨセフの食卓で裏切ったが無罪となる（創世記 44:8）	イエスの食卓で、弟子の内の 11 人はイエスを裏切らなかった（マルコ 14:17）
ユダは彼らの擁護者となる（創世記 44:18）	ユダ族の子孫の獅子から、私たちをとりなす者が現れる（Iヨハネ 2:1）
ユダは自分を身代わりのいけにえとして捧げた（創世記 44:33）	ユダ族出身であり、ご自身を身代わりのいけにえとしてささげる（エペソ 5:2）
これ以上制することが出来ず、過程を切り上げた（創世記 45:1）	選ばれた者たちのために、その日数は少なくされる（マタイ 24:22）
彼らの告白があった時、自分自身を隠すのを止める（創世記 45:2）	告白するとき、イエスが顔を隠されることはしない（ホセア 5:15）
最後に、兄弟達に正体を明かされる（創世記 45:3）	最後に、イエスはイスラエルに自分自身を明かされる（Iペテロ 1:20）
兄弟達はヨセフを見た時、動揺する（創世記 45:3）	人々がイエスを見る時、嘆く（ゼカリヤ 12:10）
“どうか私に近寄ってください”と言った（創世記 45:4）	“わたしのもとに来なさい”と言われた（マタイ 11:28）
救いのためにエジプトへ遣わされた（創世記 45:5）	失われた人を救うために世の中に遣わされた（ルカ 19:10）
イスラエルはヨセフの事を信じ“十分だ”と言った（創世記 45:28）	信じるすべての人に、イエスは“完了した”と言われる（ヨハネ 19:30）
イスラエルは“息子がまだ生きてるとは…”と言った（創世記 45:28）	人々は“イエス様、御子は生きておられる”と言った（ルカ 24:23）

聖書預言アップデート - 2020年8月9日(日)

患難時代前携挙

R EVELATION TO US 私たちへの啓示
A FFECT UPON US 私たちへの影響
P URITY OF US 私たちの純潔さ
T RUMPETS FOR US 私たちのためのラッパ
U NIFORMITY WITH US 私たちとの一致・統一性
R ESPONSIBILITY ON US 私たちの責任
E NCOURAGEMENT FROM US 私たちからの励まし

REVELATION TO US 私たちへの啓示

黙示録 1:19 「それゆえ、あなたが見たこと、今あること、この後に起ころうとしていることを書き記せ。」

黙示録 4:1 「その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた。あの最初の声があった。「ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。」

聖句	黙示録：章	出来事
あなたが見たこと... (過去)	1	イエス・キリストは十字架につけられ、葬られ、復活された。
今あること... (現在)	2&3	教会史 (教会は 19 回言及されている)
この後に起こること... (未来)	4&5	携挙
この後に起こること... (未来)	6-19	患難時代 (教会という単語の言及なし)
この後に起こること... (未来)	20	千年王国時代
この後に起こること... (未来)	21&22	新しい天と地 (新天新地)

AFFECT UPON US 私たちへの影響

マタイ 24:45-51 (45)ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいどれでしょう。(46)主人が帰ってきたときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。
 (47)まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。(48)しかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、(49)仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、
 (50)そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、(51)彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのです。

II テモテ 4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

I ヨハネ 3:2-3 (2) 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者となることは知っています。キリストをありのままに見るからです。
 (3) キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

PURITY OF US 私たちの純潔さ

Ⅱコリント 11:2-3 (2) 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。(3) 蛇が悪たくみによってエバを欺いたように、あなたがたの想いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

ユダヤの結婚式	私たちの結婚式	聖書箇所
花婿の父は、花嫁を選び、花婿はその選 びを承認する。	天の御父は、私たちが花嫁として選 び、イエスはその選 びを承認する	ヨハネ 10:28、15:16
結婚の契約（ケトゥバ）は、後に成就 される花嫁への約束として、花嫁の為 に書面(ケトゥバ)で記される。	新しい契約が、主の花嫁である私たち に、神のみことばの中で書き記される。 古い契約の成就。	2コリント 3:5-6
彼らはパンを裂き、同じパンを食べ、 同じ杯から飲み、婚約（キドウシ ン）の新しい契約に証印を押す。	イエスは最後の晩餐で、パンを裂き、 杯から飲まれ、主の新しい契約が、 主の血潮によって証印された。	マタイ 26:27- 29 ルカ 22:14- 20
花婿は代価（モハー）を払って、新婦 に愛を示す。	イエスが十字架上で代価を払ってくだ さった。花嫁の私たちへこれ以上の愛 はない。	1コリント 6:20 ヨハネ 15:23
花婿は、花嫁にすぐに迎えに来ると いう約束を伝える。	イエスは私たち花嫁に、迎えに来ると いう約束の言葉を残された。	ヨハネ 14:1-3
花婿、花嫁のために場所を用意し、父 の家に婚姻部屋を増築する。	イエスは、御父の家にはたくさん部屋が あり、私たちのために場所を用意しに 行くと言った。	ヨハネ 14:1-3
父だけが、花嫁の為に花婿が戻って 来る日と時を知っている。	イエスは、天の御父だけが、イエスが 花嫁である私たちの為に戻ってくる日 と時を知っていると仰った。	マルコ 13:32-33
花婿は花嫁へ「愛の贈り物」（マツ タン）を送る。	私たちの花婿イエスは、花嫁に愛の賜 物“永遠のいのち”“平安”を与える。	ヨハネ 10:22-28 ヨハネ 14:13-14、27
父は、新生活に備えるため花嫁に相続 財産として贈り物（シルヒム）をす る。	私たちには、父から私たちのために、 御父にあって御父とともにある新し い人生のため、霊的賜物/聖霊の賜物 が与えられている。	ヨハネ 14:16- 17 2コリント 1:21-22 ガラテヤ 5:22
花嫁は清めのお風呂『MIKVACH』に入 る。ヘブル語で洗礼の意味。	私たちは、清め、浄化下さる聖霊の洗 礼を受ける。	使徒の働き 1:4
夜の盗人のように来る花婿のため、花 嫁の未婚の友人が、花嫁に付き添い、 花婿のために明かりを灯している。	私たちは光を輝かせ、灯を灯し、夜の 盗人のように花婿が来る準備をして いる。	マタイ 25:1-13
花婿が来る時、花婿の友人たちが先 に行って、「彼が来るぞ!」と叫び、ラ ツパを鳴らす。	私たちの花婿イエスが来られる時、 神のラツパが鳴る。	黙示録 4:1 Iテサロニ 4:16-17 Iコリント 15:51-52
花婿は、花嫁を地面から上に上げ運 んで連れて行く。	私たちの花婿イエスは、私たち花嫁 を携挙し、空中に連れ去られる。	ルカ 17:34-36 Iテサ 4:16-17
花婿は、花嫁を婚姻部屋に連れて行 き、そこで結婚を完成させ(ニッス イーン)、7日間 (シャヴァ)祝う。	イエスが私たちが婚姻部屋に連れて 行かれ、婚姻が完成し、7年間(シャ ヴァ)祝う。	ヨエル 2:15-16 ダニエル 9:27

花婿が結婚を完成させたことを告げまで婚宴の招待客は待機。その後7日間、招待客は喜びを分かち合う。	世が7年間の患難時代、私たちは花嫁として7年間祝う。	黙示録 19:7-8
結婚のお祝いの後には、大きな祝宴、(婚礼のごちそう)がある。	私達も7年の祝いを経て、子羊の婚姻の祝宴がある。	黙示録 19:9
婚宴には、花嫁、花婿、招待客の3つのグループ(3組)が出席する。	子羊の婚宴も、花婿/イエス、花嫁/教会、招待客。招待客というのは、携挙後、患難時代の終わりに救われた患難時代の聖徒。	2コリント 11:2 エペソ 5:23-27 黙示録 21:9-10, 7:13-14
花嫁の新居はエルサレム。花婿が花嫁のもとにやってきて、花嫁と一緒に住む。	メシア時代、千年王国において、メシアを信じる者たちが、メシアとともに支配するのが、新しいエルサレムから始まる。	黙示録 21:1-4 エゼキエル 43:1-2,7 イザヤ 2:2-4, ミカ 4:1-5

TRUMPETS FOR US 私たちのためのラッパ

- ・聖書の中のラッパは、1) 神の民を呼び寄せて神に会わせるため、あるいは神の民を結婚式に集めるため鳴らされる。
- ・もう一つ別の理由で鳴るラッパは、2) 戦いのために神の民を集めるため鳴らされる。
- ・旧約聖書にも新約聖書にも、2種の目的のため2種のラッパがある。また最初のラッパと最後のラッパがある。
- ・最初のラッパはイスラエルのため、最後のラッパは私たちのため。
- ・旧約聖書で、イスラエルのための最初のラッパが出エジプト記にある。

出エジプト 19:16-17 (16) 三日目の朝、雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上にあつて、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。(17) モーセは、神に合わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。

- ・最後のラッパは私たちのため。パウロの「第一コリント人への手紙」、教会携挙について書かれているのを見てもわかる。

1コリント 15:51-52 (51) 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。(52) 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにかえられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないもの によみがえり、私たちは変えられるのです。

- ・その前に、黙示録 10 章 7 節にあるラッパについて取り上げる必要がある。

黙示録 10:7 第7の御使いが吹こうとしているラッパの音が響くその日に、神の奥義は、神がご自分のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。」

- ・これが患難時代の最後のラッパになりえない理由は、このラッパを鳴らすのは、神ではなく、御使いでだからである。
- ・聖書には、御使いたちのラッパと、神のラッパと、2種の異なるラッパがある。
- ・御使いのラッパはイスラエルのため、神のラッパは私たちのため。このように、黙示録のラッパはイスラエルのためである。

マタイ 24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

1テサロニケ 4:16-17 (16) すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、(17) それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

UNIFORMITY WITH US

私たちとの一致・統一性

ノアの時代	私たちの時代
ノアの時代の地球の人口は、約 70 億～90 億人だったと推定する学者もいる。(創世記 6:1)	現代では、地球上の人口は約 80 億人に達し、まもなく 90 億人に到達すると言われている。
人々は自分のことしか考えず、食べる、飲む、遊ぶ、にしか関心がなかった。(創世記 6:5)	現代の人々は、この世の心配事や問題にとらわれ、自分のことだけを愛している。(2 テモテ 3:2)
当時の習慣として、悪魔的で非常に性的に忌まわしい行為があった。(創世記 6:2)	性的に忌むべきものだけでなく、現代には悪魔的な活動も存在する。
人間の邪悪さは膨大になり、その心の思いは絶えず悪に傾くばかりであった。(創世記 6:5)	人間の邪悪さは世界的な規模。この時代の悪はあまりにも広大であるため、私たちは絶えずそのことを耳にすることになる。(2 テモテ 3:1-5)
ノアは箱舟を準備しながら宣べ伝え、人々は警告を受けたが誰も聞こうとしなかった。(2 ペテロの手紙 2:5)	場が用意されながらイエスが宣べ伝えられ、人々は警告されるが誰も耳を傾けていないよう。
人々は、「その日」「洪水」が地を滅ぼすこと、何が起るのか何も知らなかった。(マタイ 24:39)	人々はこれから起こることについて何も知らない。「火」が地上を滅ぼす「その日」が来る。(2 ペテロ 3:3-13)
洪水で滅ぶ前に、神と共に歩んだエノクは、神が彼を取られたので、その時もういかなかった。(創世記 5:24)	患難時代の前に、新生した者たち、この最後の世代は、引き上げられ携挙される。(1 テサロニケ 4:16-17)
ノアとその家族は箱舟に入り、「7」日後、洪水の水が地上を襲ってきた。(創世記 7:7-10)	私たちがエノクのように取り去られた後、「7」年の患難時代にイスラエルの民は患難に入る。(1 テサロニケ 4:16-17)
ノアとその家族は、洪水で生き残り、救われ、裁きの後新しい地にいる。(創世記 8:13-18)	ユダヤ人は患難時代の中で生き残り、救われ、裁きの後新しい天と新しい地に入る。(ローマ 11:26)

ロトの時代	私たちの時代
ロトは、ソドムに滅亡が襲う前、突然手を掴まれ連れ出された。(創世記 19:16)	私たちは、世に患難が前、突然この世から連れ去られる。(1 テサロニケ 5:3)

- ・ヨセフは、聖書の中で最も魅力的なキリストの型の一人。実は、ヨセフには 100 以上の型がある。
- ・ここでは、7 年間の飢饉前の描写に対して、患難前携挙の型であることに焦点を当てる。
- ・7 年間の飢饉が始まると、異邦人の花嫁はもう出てこない。

創世記 41:50 飢饉の年が来る前に、ヨセフに二人の子が生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが産んだ子である。

- ・ヨセフと同じように、モーセもエジプト（世の型）に災いが降りかかる前、異邦人の花嫁を娶った。
- ・イサクもキリストの型。キリストが異邦人の花嫁を娶るように、イサクもリベカをめとる。リベカは患難を経験しなかった。
- ・リベカは患難の前、キリストの型であるイサクのもとに行くため故郷を離れたからである。
- ・このことから、ダニエルが私たち教会の型、シャデラク、メシャク、アベデネゴがイスラエルの型であることがわかる。

- ・ダニエルはシャデラク、メシャク、アベデネゴが 7 倍の熱さの炉に入る前に、引き上げられ高い地位につく。
- ・ダニエル 3 章、彼ら 3 人が 6 つの楽器が奏でる 60 キュビト×6 キュビトの像を拜むことを拒否しているのが興味深い。
- ・別の型は、近親者で買い戻しの権利があるボアズの異邦人花嫁ルツ。ボアズは明らかに私たちの贖い主イエスの描写。
- ・旧約聖書を一緒に学んだ人たちには、ルツ記は最も魅力的な学びの一つでした。この学びについて興味がある人は、ウェブサイト calvarychapelkaneohe.com と YouTube チャンネルで「ルツ記」の学びをどうぞ。

ナオミとルツ	ユダヤ人と異邦人
ルツ 1:19 二人は旅をして、ベツレヘムに着いた。彼女たちがベツレヘムに着くと、町中が二人のことで騒ぎ出し、女たちは「まあ、ナオミではありませんか」と言った。	ナオミとルツの二人は、ベツレヘムにやってきたユダヤ人と異邦人両者の描写である。
ルツ 1:22 こうして、ナオミは帰って来た。モアブの野から戻った嫁、モアブの女ルツと一緒にであった。ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まったころであった。	こんにちでも、ユダヤ人はこの「収穫祭」を祝うとき、ユダヤ人のナオミと異邦人のルツを描いたルツ記を読む。
ルツ 2:2-3 (2) モアブの女ルツはナオミに言った。「畑に行かせてください。そして、親切にしてくれる人のうしろで落ち穂を拾い集めさせてください。」ナオミは「娘よ、行っておいで」と言った。 (3) ルツは出かけて行って、刈り入れをする人たちの後について畑で落ち穂を拾い集めた。それは、はからずもエリメレクの一族に属するボアズの畑であった。	ルツはボアズに出会う。ボアズは近親者の贖罪の律法を実現する人。エリメレクの畑を買い戻し、その息子の異邦人の花嫁と結婚し、申命記 25:5-10 の通り、兄の家名を受け継ぐことができる人。
ルツ 4:13 ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。ボアズは彼女のところに入り、主はルツを身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。	近親者が（イエスは人となられ私たちの隣、近親者となられ）花嫁を愛するあまり、畑（世）を買い取る。この花嫁への愛から息子が生まれる。
ルツ 4:14 女たちはナオミに言った。「主がほめたたえられますように。主は、今日あなたに、買い戻しの権利のある者が途絶えないようにされました。その子の名がイスラエルで打ち立てられますように。」	ボアズ（イエス）は近親者の贖い主であり、ルツを非常に愛し、生涯その名を残す系統が途絶えないよう、彼女に息子を与えた。
ルツ 4:16-17 (16) ナオミはその子を取り、胸に抱いて、養い育てた。 (17) 近所の女たちは、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名をつけた。彼女たちはその名をオベデと呼んだ。オベデはダビデの父であるエッサイの父となった。	この子はユダヤ人ナオミの膝に抱かれ、異邦人の花嫁ルツは聖書にもう出てこない。（患難前携挙）。この子はダビデの祖父オベデであり、イエスがベツレヘムでお生まれになる系統。

RESPONSIBILITY ON US 私たちの責任

メリアム・ウェブスターは、「責任とは、信頼性と信用性、責任を怠っていないという意味で、責任を負うもの。」と定義。

黙示録 3:7-13 (7)また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、だれも閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる—。(8)わたしはあなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。(9)見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しているが、実はそうではなく、嘘を言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに來させてひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。(10)あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に來ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。(11)わたしはすぐに来る。あなたは、自分の冠をだれにも奪われないように、持っているものをしっかり保ちなさい。(12)わたしは、勝利を得る者を、わたしの神の神殿の柱とする。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って來る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記す。(13)耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。』

ENCOURAGEMENT FROM US 私たちからの励まし

I テサロニケ 4:13-18 (13)眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。(14)イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあつて眠った人たちを、イエスとともに連れて來られるはずで、(15)私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の來臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。(16)すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って來られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、(17)それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。(18)ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。

最後に、今日この患難前携挙の教えをした理由は、携挙はいつ起こってもおかしくないからです！
ですから、毎週この聖書預言・アップデートを行い、イエス・キリストの福音と簡単な救いのABCで締めくくります。

福音/良い知らせとは、「イエスが十字架にかけられ、葬られ、3日目によみがえり、そしていつか私たちのために戻って來られます」

救いの ABC

Admit 認める/自分は罪びとであり、救い主が必要だと認める。(ローマ 3:10-6:23)

Believe 信じる/イエスが主であり、神はイエスを死からよみがえらせたと信じる。(ローマ 10:9-10)

Call 呼び求める/イエスの御名を呼び求め、イエスが主であると告白する。(ローマ 10:9-10, 10-13)